

「QRコード」は、株式会社デン
ソーウェーブの登録商標です。

校長室通信

～ハートフル門小～

令和7年度 第8号（令和7年12月15日発行）



R7教育目標：自ら学び 心豊かに たくましく生きる 子どもの育成 ⇒ 「知恵いっぱい・心いっぱい・汗いっぱい」

もうすぐ…2学期（83日間）が終了！～ご支援・ご協力ありがとうございました～

「オープンスクール・運動会・鑑賞教室・避難訓練・学力テスト」（全学年）、「宿泊学習」（5年）、「修学旅行・陸上記録会」（6年）、「秋の遠足」（1～4年）…等々、大きな行事が目白押しの2学期でした。全てが“大成功”とは言えなかったかもしれません、子どもたちは失敗や反省等を生かしながら、たくさんの行事を通して大きく成長できたと思います。

今年一年間、保護者はもちろん、地域の皆様にもご協力をいただき、376名の子どもたちが元気いっぱい、安全に学校生活を送ることができました。日々の子育てや見守り、温かいお声かけ等に心より感謝申し上げます。冬休みは、年末・年始の行事等に触れさせたり、家族の一員としての自覚を深めさせたりする絶好の機会だと思いますので、見守りやご協力をよろしくお願ひいたします。

今年度の学校経営の数値目標について、2学期終了時点（12/11現在）の途中経過をお知らせします。目標達成が少し難しい項目もありますが、3学期に最後の追い込みを頑張ります。



目標項目	対象等	目標設定値	2学期の結果(12/11)	参考1学期の結果
1 「学校は楽しい」	意識調査（3～6年）	肯定回答90%以上	79%	77%
2 「トイレのスリッパをそろえている」	意識調査（3～6年）	肯定回答70%以上	65%	63%
「　　」がそろっている	意識調査（教職員）	肯定回答70%以上	12.5%	8%
3 「学年に応じた“授業の五箇条”」	意識調査（教職員）	肯定回答75%以上	50%	33%
4 学校図書館貸出冊数	全校児童	昨年度（21,925冊）以上	14,394冊	6,282冊
5 CRT（標準学力テスト）	全学年	昨年度の学年平均以上	結果は1月頃	11月末予定
6 「一人で避難できる自信がある」	意識調査（3～6年）	肯定回答90%以上	79%	69%
7 学校ホームページ閲覧数	閲覧者	30万件以上	197,551件	84,422件
8 児童作品新聞掲載数	全校児童	40点以上	13点	1点

他校との交流から学ぶことは大きい！～…大海(たいかい)を知る大切さ～

学校は人と人が関わり合う社会の縮図であり、児童にとって一番身近な社会です。しかし、その社会は狭く閉鎖的で、特にコロナ禍に入学した高学年の子ども達にとっては、自分たちの学校が全てであり、全国水準だと思って生活しています。そんな子ども達にとって、他校と交流することは、社会を広げるためにとっても大切な機会であり、自分たちの生活や価値基準等を見つめ直すよい機会と言えます。

11月には、6年生が陸上記録会で町内2校と交流し、他校がラジオ体操や「回れ右」の合図で“1・2・3”とかけ声をかけてキビキビと行動したり、友達の競技を大きな声で応援したりする姿を目の当たりにしました。5年生も、行縢宿泊学習で延岡市の2校と一緒になり、話の聞き方や、廊下歩行・食事のマナー等について学ぶべきことが多かったです。本校の5・6年生は、他校の姿をどのように受け止めることができたのでしょうか？他校のよさを素直に吸収できる本校の5・6年生であってほしいと願います。来年の行縢宿泊学習も、「単独での実施より、他校と一緒にの方がいい。」と思ったところでした。

全国学力・学習状況調査（6年生4月実施）の結果から…

～算数編～

先月号に続き、今月は算数の結果について紹介します。残念ながら、算数も全国平均を上回る問題はありませんでした（全16問）。全国平均を特に大きく下回った問題の分析内容は、以下のとおりです。

番号	問題の概要	正答率	出題の趣旨
4 (2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く。 【問題文】使いかけのハンドソープの液体と容器を合わせた重さは270gでした。空になるまでにあと何プッシュすることができるのかを知るために、270gの他に何が分かればよいですか。下の中（省略）から2つ選び、その2つと270gを使って、あと何プッシュすることができるのか、その求め方を式や言葉を使って書きましょう。	17.7 全国との差 -31.0	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。
3 (1)	0.4+0.05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く。 【問題文】0.4は□の40個分、0.05は□の5個分です。 0.4+0.05の計算は、□をもとにすると、40+5を使って考えることができます。…□に入る数を書きましょう。	46.8 全国との差 -27.3	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる。
1 (1)	2022年の全国のブロックリーの出荷量が、2002年の全国のブロックリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ。	51.6 全国との差 -27.1	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる。
考 紮			今後の対策
<ul style="list-style-type: none"> ○ 長文問題は、問題場面がどれだけイメージできるか が重要であるが、「全体」と「部分」の関係を捉える力が十分でない児童が多い。また、2つの選択肢は分かっていても、式や言葉の説明が苦手な児童も多い。 ○ 小数や分数の計算の仕方を機械的に覚えている児童が多く、その仕組みまで理解できている児童は少ない。 ○ 「AはBの何倍か」は、いろいろな学年で繰り返し出てくる。「もとにする量」がどれで、「くらべる量」がどれかが十分に理解できていないと $A \div B$ の立式は難しい。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題場面を絵や線分図等に置き換えるながらイメージする力を身に付けさせる。また、自分の考えを、文章や言葉で説明する活動を重視するようにする。 ○ 小数や分数の計算では、常に「単位数のいくつ分か」という問い合わせをもたせるようにする。 ○ 「～の何倍か」に着目させ、立式前の関係図をかく活動を丁寧に取り扱うようにする。